



今、ボランティアセンター担当者にとって大切なコーディネート力。企業との連携、福祉教育の推進、そして災害ボランティアなど、地域の課題に協働で取り組むため、コーディネートが重要になっています。ボランティアセンター担当者が押さえるべきコーディネートのポイントを連載で紹介しします。

NPO法人 日本ボランティアコーディネーター協会
事務局長

ことつ まりこ
後藤 麻理子さん

2005年4月から、日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)専従事務局として、市民社会を支えるボランティアコーディネーターのネットワークづくりをめざし、人材養成や調査研究、啓発活動を進めている。東京都社協東京ボランティアセンター(当時)勤務時には、市民からのボランティア相談や地区ボランティア活動・企業の社会貢献活動などを推進。東京都北区ボランティアセンター出向時には、地域福祉活動計画策定にも参加。

第3回 ボラセンの強みを生かすコーディネートの力量をあげる

端的にいうと社協の“ボラセン”には公的なおカネがつきにくい時代になりました。これは明らかにピンチです。しかし一方で新たな事業やサービスとの連携、官民の助成金、さまざまなファンドレイジングのアイデアなども登場しています。

限られたリソース(資源)のなかで“ボラセン”の機能をどのように捉え、生かしていくのか。ボラセンが地域福祉推進部門に組織統合されるケースが増えるなか、その機能が埋もれてしまわないようにするにはどうしたらよいのでしょうか。

1 強みを生かした守備位置、攻め位置

そのために、ボラセンという場所や機能が社協にあることの意味、ボラセンならではの強みを考えてみます。

1つは活動したい人がアクセスをしにくる窓口であるということ。福祉の相談窓口の多くが「困っている」「援助してほしい」相談が多いのに対し、これに加え「何かしたい」「地域や社会に貢献したい」人たちがやってきます。企業や学校関係者などからの相談も入ります。この活動したい側のニーズをしっかりととらえ、市民が社会活動に参加する機会をつくり、思いをカタチにしていきます。

2つには、地域コミュニティでは解決しきれない課題に積極的に関わることができること。地縁組織とは役割も動きも異なるピンポイントのテーマに関わる組織やグループとのつながりがあり、時には市町村や県域を越えることも。動けば動くほどに地域や分野を越えたつながりが蓄積していきます。

3つには、マイノリティの課題に着目できること。住民にとって共感性の高い話題ばかりではなく、認知度の低い課題もあります。法制度が追いつかない問題は公的な窓口につながらない場合があり、本人や家族を支えているのはボランティアな個人やNPOです。レアなニーズをともに考え、社会化する

きっかけや場を創ることができます。

これらのことを整理すると、エリアとしての地域を越える、狭い意味での福祉という分野・領域を越える、既存の制度や慣習の枠を越える、など、キーワードは積極的な“越境”。ポスター(境)をつくらない、開かれた拠点としての強みがあると思います。

2 求められるコーディネーションスキル

さて、このような強みを展開していくために重要になるのが、ボラセンを動かす「人」。そしてそれは「職員」のみには限りません。

例えば、運営委員であったり、事業のプロジェクトメンバーであったり、ボランティア(グループ)であったり、日頃からしっかりとあるいはゆるやかに連携している組織や団体もあります。このつながりのストックこそが、ボラセンの財産です。あとはいかに目標を明確にし、柔軟かつ臨機応変に動くことができるのか。それゆえ職員に求められるのは、それを企て、仕掛ける“コーディネート”の力量です。

コーディネートに必要な力とは何なのか。日本ボランティアコーディネーター協会が実施している「ボランティアコーディネーション力2級検定」で共有している、コーディネートを進める際に必要な8つのスキルを参考に紹介します。

①コミュニケーションスキル

相談者や関係者との面接や調整、会議、他機関・団体との調整・交渉など、相互作用を生み出す。

②エンパワメントスキル

参加への動機づけをしたり、活動への自発性を高めたり、潜在的な能力を引き出す。

③アセスメントスキル

キャッチした困りごとや寄せられる相談ニーズの背景を分析し、社会課題として読み解く。

④組織デザインスキル

協働、連携のための話し合いの場や

ルールをともにつくり、活動を推進するチームや仕組みを設計する。

⑤広報スキル

わかりやすい表現を用い、情報を届けたい対象に応じた情報発信媒体・手法を使い分ける。

⑥開発スキル

既存の社会資源では対応できないニーズに対して、新たな取り組みやプログラムを生み出す。

⑦人材マネジメントスキル

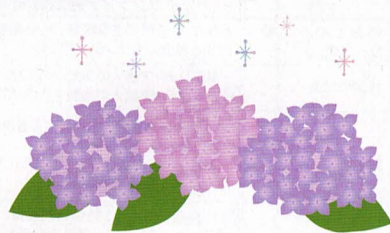
適切な人材を獲得し、継続的にサポート。多世代への福祉学習の場づくりなどで種をまく。

⑧業務進行管理スキル

活動を見える化するための記録や統計、全般的なスケジュールを管理する。

2級検定は、ボランティアコーディネーション力を発揮して実務にあたる人たちをターゲットにしています。ボラセンをはじめ社協で働く人たちには、ぜひとも習得していただきたいレベルです。こうした幅広いスキルが総合的に発揮されることで、ボラセンの機動力は高まっていくと考えられます。とりわけ②と③と⑥は今後ますます重要になってくるでしょう。

あなたの日頃の仕事を振り返って、前述したようなスキルを活用できている場面がありますか?「お世話役」にならず、「仕掛け役」になることを、常に意識して動いてほしいと思います。



さて、次号からいよいよ「コーディネートのチカラワザを磨く」ヒントになる実践例やコーディネートのポイントを紹介しします。実践経験豊かな日本ボランティアコーディネーター協会関係者がリレー形式で執筆していきます。